

太陽の道周辺の古代遺跡

北淡舟木の石神座探訪記

8-Aug-2008

Gainendesign Labo. Taizan

586 Takakura Fujisawa-shi Kanagawa-ken Japan 252-0802

Tel/Fax 0466-43-4713 Email taizan@gainendesign.com HP <http://www.gainendesign.com/>

昭和55年（1980）にNHKが、北緯34度32分の“レイライン”として紹介したのが今回のメインテーマである『太陽の道』。

もともとは奈良在住の写真家小川光三氏が『大和の原像；知られざる古代太陽の道』（大和書房）を発表したのがきっかけで、奈良県桜井市の箸墓（古墳；大市姫の陵墓とされている）を基点に、東西に重要な古代遺跡が並んでいるというもの。

そのライン上に淡路島舟木の石神座がある。『太陽の道；サンロード』説では伊勢の斎宮址、淡路島伊勢の森、長谷寺、三輪山、桧原神社、国津神社がライン上に存在するという。淡路島の石神座が太陽の道の西端にあたるという。ちなみに、太陽の道を淡路島から更に西に延長すると岡山県玉野市付近に出る。

現在では、各遺跡の厳密なロケーションが若干ずれているとの指摘もあり、北緯34度32分という数字そのものが特異性を持っているかどうかは議論のあるところではあるが、いずれにしても東西を結ぶライン上にこれらの有数な遺跡群が存在していることは事実であり、興味深い。

私は、伊勢周辺、長谷寺、三輪山、箸墓、桧原、北淡路、岡山県玉野周辺を全て巡ってみた。今回の探訪記では特にその中の北淡路舟木にある石神座について触れることにする。件のNHKの番組でもこの巨石遺構が紹介され、一気にこの地が有名になったということである。石神座（石上；いわがみ）神社の看板にもその旨が明記されている。

御神体石を石神座といい、神社全体を石上神社という。ちなみに地図上では岩上神社と記されているところもある。

さて、“レイライン”なる概念が一度提議されると、ラインそのものが象徴化されて独歩的に意味を発信するようになる。もともとは複数の遺跡の存在が第一義であったものが、それらを統合するようなラインが設定されると、「ライン自体に遺跡群が意味を持つて付随しななければならない」というような錯覚に陥ることも否めない。

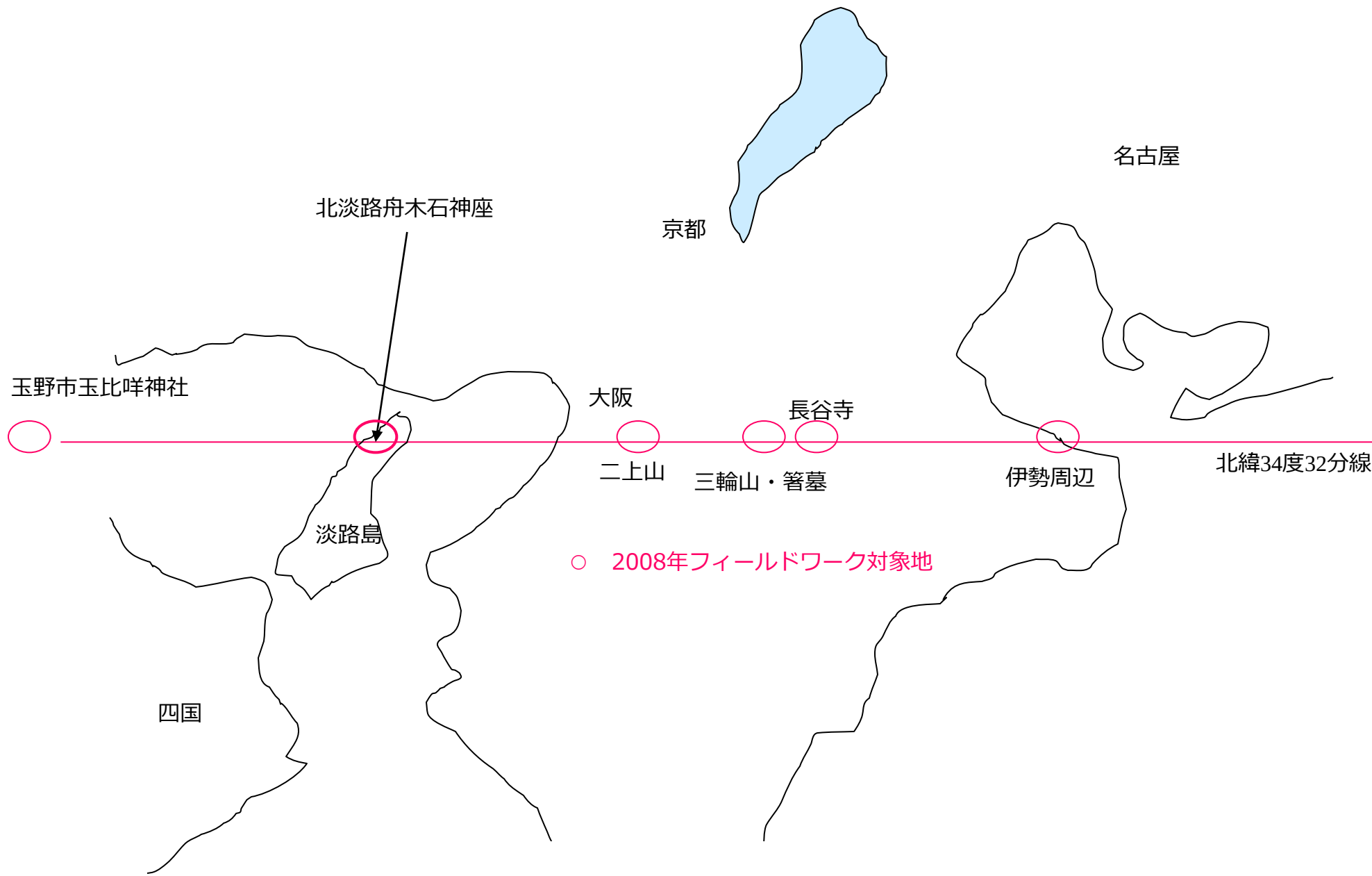
今回、複数の太陽の道に関わる遺跡を巡って感じたことは、各所での太陽そのものの存在に関する共通性であった。すなわち日常生活において太陽が昇りそして沈む…朝日を拝み、夕日に想いを馳せる…そういう太陽と地と人の関係が各所で深く根付いており、実際、私も長谷寺で朝日を浴び、三輪山のふもとで夕焼けを愛で、石神座で昇日を見るにつけ、これらの遺跡が「太陽と深く関わるもの」であることを実感した。

だから、太陽との関係を深く構築する場所や施設を拾って行けば、おのずとそこには太陽に関わる共通項が生じてくることになるだろう…それが結果としての『太陽の道』であり、古代人が太陽の道的な概念で結ばれていたというよりも、それぞれが各所で、太陽との関わりを深く生活の中に求めていたということなのだと思う。

北淡路舟木の石神座で実際に感じたことは、木々の合間を縫って射しこむ日の光であり、北方に存在する小高い大戸山なのであった。結果として現代的視点で概念設定される“ライン”は重要であることには違いない。ただし、やはり第一義的に重要なことは、その遺跡周辺で日常的に「何が起こっていたのか」、「古代人は何を感じていたのか」…なのではないだろうか。

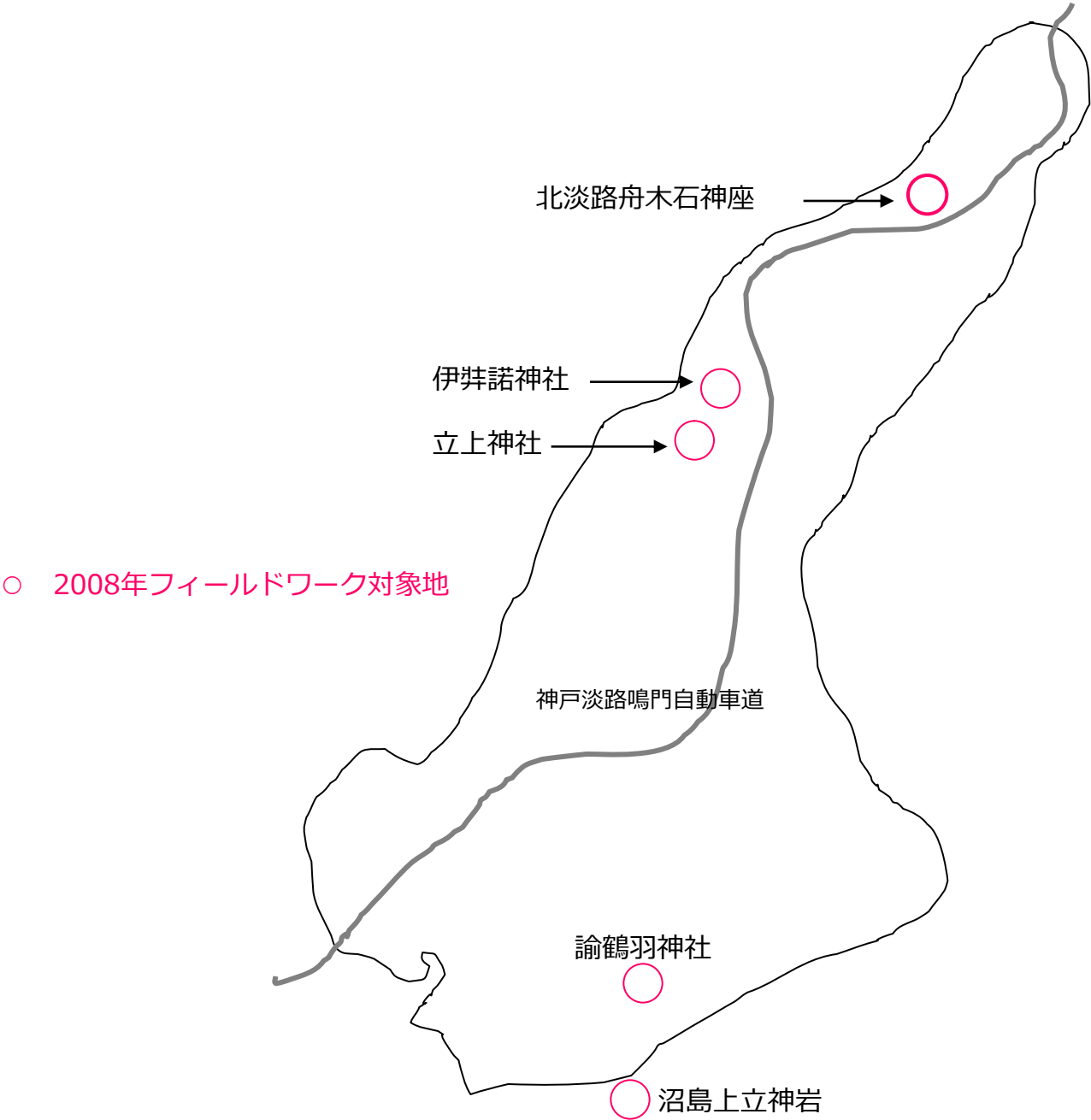


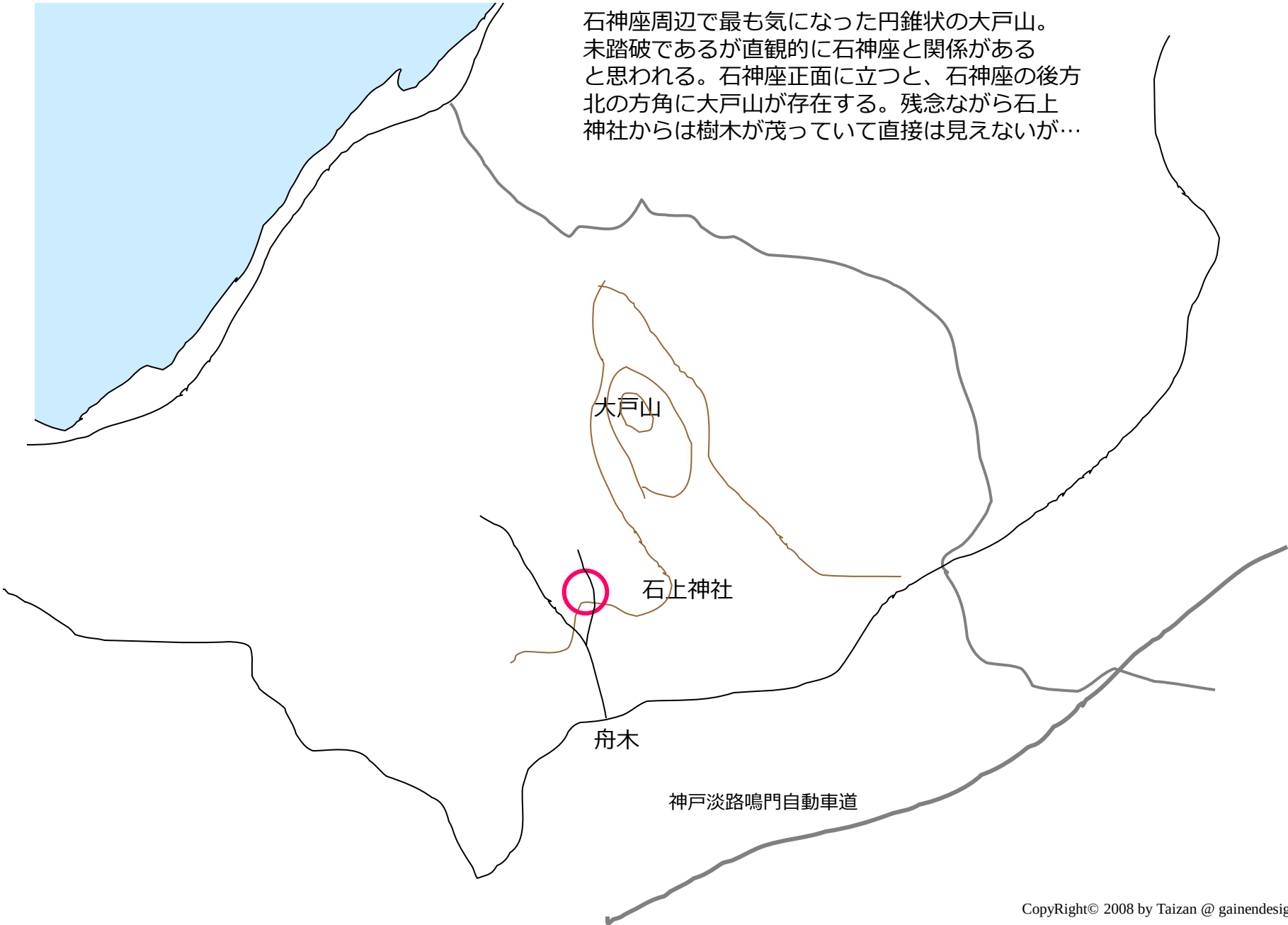




○ 2008年フィールドワーク対象地









これが石上神社の御神体；石神座。
祠のある面が南に向いている。
当日は朝8時半頃についたが、ちょうど東側から太陽光が射していることが分かると思う。
石神座（いわがみ…と呼ぶのだろう）は全体がマウンド状に盛り上がった石上神社全体の頂点にある。
サイズはかなり大きく、高さ約2m、幅・奥行き約4mほどの餅状の巨石である。
後述するが、後世に積まれたと考えられる前方の小石群はさておき、この御神体石の下部（祠の奥）は巨石による組み石構造が見られる。

サイズ比較



御神体の石神座は明らかに花崗岩である。これは東側側面。左下には貫入痕跡も見られる。
地質的には北淡路周辺は花崗岩塊が多く存在する。



御神体石神座の側面下部の支え構造。石神座を安定させるための人工加工痕跡と見てよいだろう。



御神体石神座の基底部は祠となっている。最奥部は小石が積まれ塞がれているが構造的には石神座を天井石としてその下の台石二つによって支えられるドルメン状の巨石遺構であるといえる。

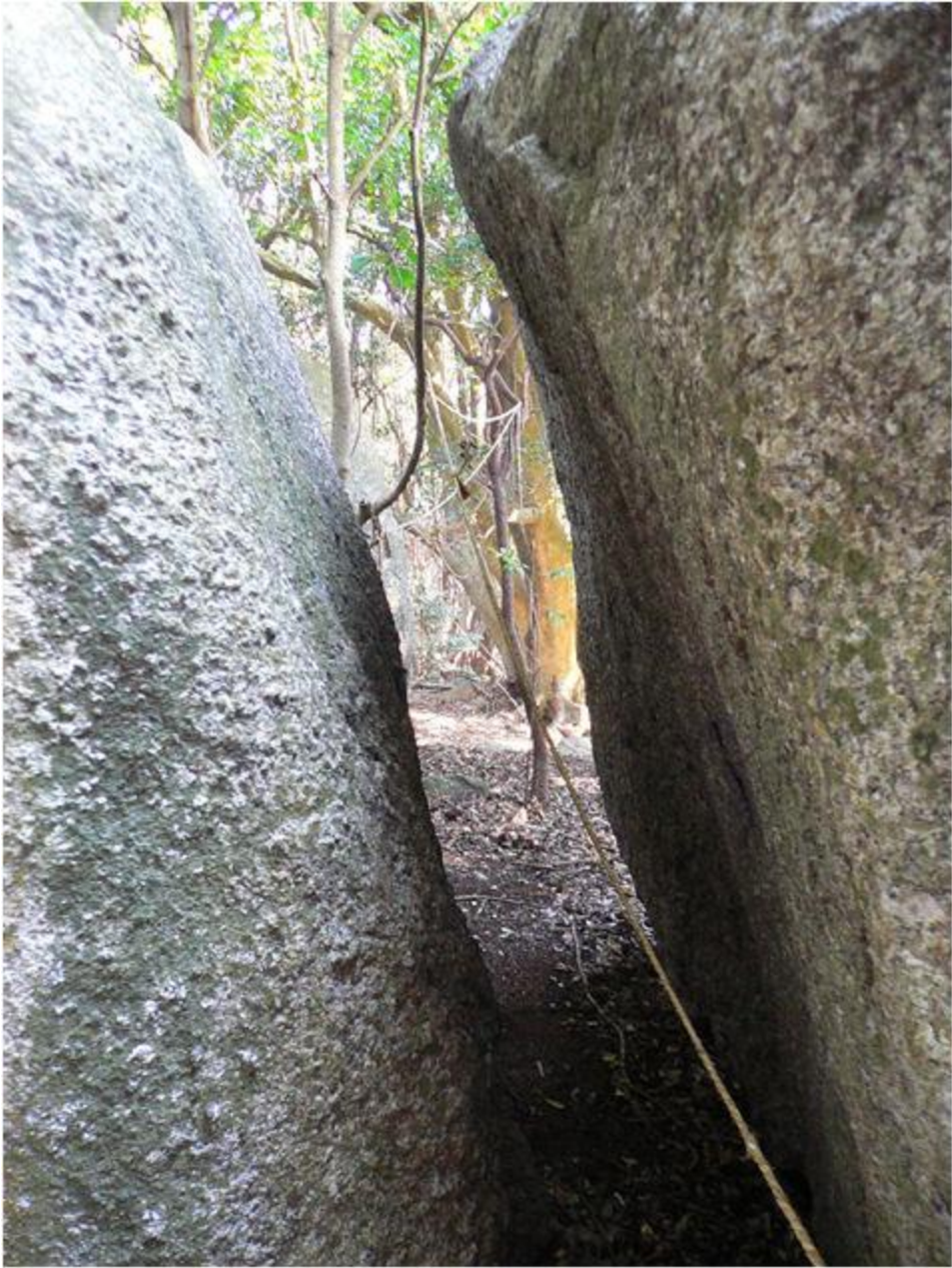


御神体石神座の西側にあった祭壇石状の巨石。現在でも祭祀の“場”になっている。



御神体石神座の周辺には巨石が複数ある。これは意図的に形成された天岩戸構造と考えられる。





石組みの痕跡らしき部分。これらも石神座周辺の巨石。

